

【会長賞：小学生の部】

「ぼくの大すきな友達」

福島県・福島市立杉妻小学校
4年 村上 遥斗 さん

ぼくは、保育所の時に障害のあるお友達に出会いました。そのお友達は、産まれた時に病気になり、足を動かすという事が出来なくなりました。筋肉がつかなくなってしまったのです。歩くには、ほふく前進で手で進むか、障害者用のつえで歩くかになります。まだ、小さいお友達は、ほふく前進であるくのがほとんどでした。手で体を支えているから、うでの力は、だれよりも強かったです。ただ、その反対に、外遊びはあまり出来ませんでした。プールの時間はいきいきしてました。ぼくは、室内で遊べる時は、いっしょに遊びました。

どうして、歩けないのかふしぎに思ったけど、お友達に聞くことも、自分のお母さんに聞くこともしませんでした。

お友達は、郡山の小学校へ行く事に決めました。そして、とうとう引っ越しの日です。ぼくは、妹とお母さんとお友達の家に行って引っ越しのお手伝いをしました。

ぼくは、悲しい気持ちをこらえながらいっぱい遊びました。お別れの時、バイバイしました。それから1年後、たびたびいっしょにレストランで食事したり、保育所でなかなか出来なかった公園遊びもしました。ただ、家の人の手助けがないと、遊べませんでした。

それから1ヵ月、2ヵ月とすぎ、ぼく達は3年生になりました。また、いっしょに食事をして、公園へ行きました。びっくりしました。その時は、上手につえを使って歩いたり、走ったりしていました。ぼくもうれしくなりました。お友達も小学校へ行っていっぱい練習したのだと思います。保育所みたいに、すぐにだっこしてくれる先生もいないだろうし自分でやる気持ちが成長へとつながったのだと思います。

4年生の春、お友達とやくそくをして会いました。大きな公園へ行きました。そこには大きなスベリ台があります。ぼくとお友達は大きなスベリ台を手をつないですべりました。お友達のお母さんはびっくりしていました。

なぜなら、きょうふ心でパニックにならないか心配だったからです。お友達のお母さんは、わたしが思っている以上に、子供は心も成長しているんだねと感動していました。

ぼくと妹、お友達とお友達の妹 4 人で手をつないだり、きょうそうしたりと何度もスベリ台を楽しみました。下から上には、急な登り坂を上がらなくてはいけません。ぼくは、ヘトヘトでしたが、お友達は手を使ってつえで上がってもつかれを見せませんでした。

ぼくは、お友達を見て、もしかしてふつうの人より、とっても力がある、だれにも負けない心と体力があると知りました。

6 年生、中学生、高校生になっても、ずっとお友達です。そして、ぼくのねがいです。

医りょうの発達で、お友達の足が治るといいな、お友達がのりたいジェットコースターにのりたいなと思います。